



## Informazione n.2

カマルドリ 2023年6月15日

愛する姉妹のみなさん、養成期にある若者のみなさん、師イエスの友のみなさん、協働者のみなさん、パウロ家族のみなさんへ

わたしたちの総会の歩みも第2段階に入りました。この何日かの出来事を喜びをもって分かち合いたいと思います。



6月9日から11日まで、わたしたちは5つの大陸にまたがる修道会の現実を訪ねる旅をしました。アフリカ（ブルキナファソ、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国）、広大なアジア（フィリピン/台湾/香港、韓国、日本、インド）、将来性に富むオセアニア（オーストラリア）、苦悩するヨーロッパ（イタリア、バチカン、フランス、ポーランド、スペイン、ポルトガル、ウクライナ、チェコ共和国）、南北のアメリカ大陸（メキシコ、チリ、ベネズエラ、コロンビア/エクアドル、アルゼンチン、ブラジル、アイルランド/米国、カナダ）です。



この素晴らしい旅は、言語、文化、人財、霊的、経済的資源の多様性と豊かさによって特徴付けられます...非常に多くの断片が、ただ一つの体の交わりの中で一つのモザイクを形づくっています。しかし、この偉大な旅はバーチャル（仮想的な）ものであるだけでなく、このシノドスの会議において修道会のすべての地区を代表する姉妹たちがお互いに知り合う中で行われたものでもありました。

わたしたちは皆、同じ船に乗っているという認識に達しました。生活と使命という嵐の波を渡っている間、わたしたちと一緒に船に乗っているのは復活された師であるイエスですから、わたしたちは沈むことを恐れません。信仰が、主と一緒に舟が向こう岸に着くことを確信させてくれます。五大大陸におけるわたしたちの歴史、わたしたちのミッションを語るページは、光と影、太陽と雨で構成されています（ちょうど最近のカマルドリ

の気候と同じように)。それは家族全員に注がれる豊かな恵みの物語であり、わたしたちが喜びをもってマニフィカトを、謙虚にミゼレーレを歌える美しい物語です。

総会会議場での朝の祈りは、異なる地区の姉妹たちによって毎日導かれます。誰もがシンプルかつ創造性をもって自分たちを表現します。午後の作業を始める前には、修道会のウェブサイト <https://www.pddm.org/-100anni/visual-story-telling/> に掲載されている 100 周年のために用意された総本部作成の創立の歴史のビデオを通じて、世界中の地区の先駆者であるシスターたちの物語を深い感動と感謝の気持ちをもって観ます。



6月12日月曜日、わたしたちはSr.M.ミカエラ・モネッティが紹介する修道会報告書を読み、分かち合うことに専念しました。Sr.M.ミカエラ・モネッティの言葉の抜粋を引用します。「第10総会は、わたしたちに、修道会の多声合唱のさまざまな声を代表参加者から直接聞く機会を与えてくれます。この多声合唱は、それぞれの地区の特質において、ミッションの一致を表しています。それは、さまざまな国や文化の中で、また、美しさと真理の中で神に喜ばれる賛美をささげることができるところならどこでも、わたしたちが

神の忠実な民の一部をなし、師イエスが知られ、愛され、従うことができるように、生き働く存在となることです。」

翌日6月13日は、Sr.M.ジョヴァンナ・コロンボが修道会の財産管理の報告書を発表しました。それは、この6年間にウクライナや世界の他の地域で起きたパンデミックと戦争、さまざまな国の貧困と社会状況によって特徴づけられた状況を現実的に読み取ったものでした。それは全世界に対する責任と連帯を思い出させるものです。「経済的および社会的困難は、確かに存在しており、近年さらに顕著になっていますが、あらゆる状況にもかかわらず、わたしたちが共同体やわたしたちの周囲で起こっている美しさや良いことを認識することを妨げるものではありません。福者ヤコブ・アルベリオーネとマードレ・M・スコラスチカ・リバータに、特にこの暗い歴史の時期に、神に飢え渴く人類の叫びを受け入れる大きな心、聖師のために完全に身をささげる勇気、自分たちの間違いを認める謙虚さ、毎日の経験と努力を通してやり直す強さを聖師からいただけるように祈りましょう。しかし、何よりもわたしたちが求めるのは、さまざまな地区と共同体との間の交わりを強めること、つまり父と子と聖霊の愛でわたしたちが一致していると感じさせるような交わりを強めることです。」



神に飢え渴く人類の叫びを受け入れる大きな心、聖師のために完全に身をささげる勇気、自分たちの間違いを認める謙虚さ、毎日の経験と努力を通してやり直す強さを聖師からいただけるように祈りましょう。しかし、何よりもわたしたちが求めるのは、さまざまな地区と共同体との間の交わりを強めること、つまり父と子と聖霊の愛でわたしたちが一致していると感じさせるような交わりを強めることです。」



さまざまな言語別グループで、または会議場で一斉に生活を分かち合い、熟考の対象となっていることを表現したり、体全体（修道会全体）の善のために聖霊が各自に示唆するインスピレーションを分かち合うために、十分な時間が与えられています。全く自由に、耳を傾け、お互いを尊重しながら、生き生きとした対話が行われ、ファシリテーターの Sr.マリアムがスイスの時計のようにわたしたちのために正確な時間を区切ってください。

わたしたちの総会作業の第2段階と考えることができるこのときは、6月13日に和解の儀式（回心式）をもって締めくくりました。わたしたちは聖堂でこの典礼的な時を過ごし、100周年のための準備手引書に従い、心からお互いに許しを求め合い、平和の抱擁で和解しました。「あなたの神、主が導かれたこの四十年（100年）の荒れ野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた」（申命記 8:2）。

6月14日から、わたしたちの歩みは新しい照らしの段階へと続いていきます。そのことに関しては次回にお伝えしましょう。

毎日届くみなさんのメッセージとお祈りに感謝いたします。本当にわたしたちの支えとなっています。

総会参加者の姉妹一同から熱い挨拶をお届けします！

インフォメーション委員会  
Sr. マリア・デ・ラ・パス・カルボナリと Sr.M.エマヌエラ・ヴィヴィアノ